

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 大熊勝明

JR東労組

本部OB会

ニュース

No. 159 2011年7月 発行

被災者支援・脱原発、高齢者に優しい「社会保障制度の確立」の方針決定！

〔本部OB会第十五回定期総会／報告〕

6月23日、「東日本大震災」で延期になっていた本部OB会第15回定期総会が、87名の参加者により、本部の大会議室で開催されました。定期総会では、先達の死の悲しみを乗り越え「東日本大震災」で被災されたOB会会員を支援し、脱原発の旗を掲げながら「高齢者に優しい社会保障制度の確立」を目指して闘っていく方針が満場一致で確認されました。

小竹さんが優しく制度を説

定期総会開催に先立ち、12時からOB会二回目の講演会が開催されました。講演者は「市民福祉情報オフィス・ハスカップ」の小竹雅子さんで「介護保険制度を考えよう」と題して、約一時間に亘って分かり易くお話をしてくれました。

この講演会は、昨秋の「合同会議」の時に初めて行われ、今回は二回目です。JR関係者以外の講師の話を聴く機会が少ないOBには、このような講演会は大きな意義をもっており、今後も機会があれば開催していきます。

震災・原発・エルダーで活発な議論

定期総会は13時15分より、先の震災で亡くなられた方々や病に倒れた松崎明・角岸幸三両氏に黙祷を捧げました。議長には東京の山川委員が選出されました。来賓には、OB会も総力をあげて当選させた



田城参議院議員を始め、日頃からお世話になっている「自然と人間社」や「榊鉄道ファミリー」などから多数の方が見えられました。質疑応答では、七名の委員から発言がありました。

主な意見は次の通りです。

- ◎ 地域で退職者連名の組織を結成し、JR東労組の運動を拡大してきた。自分も被災したが、自治会長として地域をまとめてきた。
- ◎ 原発避難者となかなか連絡が取れない中で被災者からも義援金が寄せられている。
- ◎ OB会の代表が現地に調査・激励に来て頂き被災者は感謝している。日本は、三発目の「核」を自ら爆発させた。
- ◎ エルダー社員の組織化が弱い。連絡会を創ってきたが、今後の取り組みが重要だ。
- ◎ 福島原発事故を教訓に、今後は脱原発の社会を目指そう。

内海氏に見舞金 秋野・木地両氏に感謝状

会議はその後、「脱原発の特別決議」を採択した後、被災しながら総会に参加された盛岡地本の内海氏に「見舞い金」が渡され、会場内は一気に温かい雰囲気になりました。また長年地本OB会長としてOB会運動に貢献された秋野武正氏（仙台）と、木地誠氏（長野）に感謝状が贈られました。

今回の定期総会は、私達OBがお世話になる「介護保険制度」について、しっかりと学び、大震災で甚大な被害を受けた被災者を支援しながら高齢者や孫たちが「放射能汚染」のない安全な社会を築いていく決意を固め合っており、成功裡のうちに終了しました。

◇新年度の役員体制

顧問	会長	副会長	副副会長	事務局長	事務局次長	事務局次長	事務局次長	会計監査員	会計監査員
	小澤大	澤熊大	康勝大	秀明大	秀明大	秀明大	秀明大	秀明大	秀明大
	長佐福	長佐福	長佐福	長佐福	長佐福	長佐福	長佐福	長佐福	長佐福
	副会長	副副会長	副副会長	副副会長	副副会長	副副会長	副副会長	副副会長	副副会長
	田中伊	田中伊	田中伊	田中伊	田中伊	田中伊	田中伊	田中伊	田中伊
	石井芳	石井芳	石井芳	石井芳	石井芳	石井芳	石井芳	石井芳	石井芳
	君神岸	君神岸	君神岸	君神岸	君神岸	君神岸	君神岸	君神岸	君神岸
	神岸	神岸	神岸	神岸	神岸	神岸	神岸	神岸	神岸

OB声の広場

人災・福島原発事故を考へる

◇ 一日の始まりは、朝刊を開き、各地で観測された大気中の放射線量を確認することが習慣となった。
◇ 福島第一原発事故は人災である。原発から60kmにある福島市に私の親戚が多く居住している。彼らの不安や怒りを毎日聞くようになった。その声は、孫達が自由に外で遊べない、通学にマスクと帽子は必需品、水道水が飲めない、等々だ。

◇ 政府は口を開けば「直ちに影響はない」と嘘を言う。東京電力や原子力保安院は「想定外の事態」との発言に終始する。福島市の住民は嘘偽りのない情報を求めており、「覚悟はしている」と言っている。

◇ 仙台在住の郷土史研究者 飯沼勇義氏は「仙台平野の歴史津波く巨津波が仙台平野を襲った」という本の中に、史上最大と言われる貞観津波(869年)と慶長津波(1611年)の巨津波が青森県八戸から福島県いわき市小名浜に至る太平洋沿岸線全域から内陸部まで襲来したと記している。まさに今回の大津波を予言する警告の書であった。「想定外」ではなかったのである。

◇ 時折、雲が混じった土砂降りの雨の中、柏崎原発公開ヒアリング阻止のために闘われた、かつての青年部時代の反戦・反原発闘争を思い出す。その後闘いは持続せず、原発推進の大きな流れに呑み込まれていった。利潤第一・効率優先・安全軽視の暴走を許してしまったのだ。子供や孫に負の遺産を残してしまった。かつて「俺は反原発であった」と強調しても、原発推進の流れに屈してきた責任から逃れることは出来ない。

◇ 3・11は、文明社会に対する警鐘であり、価値観を大きく変える転換点の日である。不便ながらも心に安らぎのある日々を送るか、それとも恐怖におびえながら便利な日々を送るか、一人ひとりに覚悟と選択が求められている。

◇ 仙台地本OB会は、「抵抗とヒューマンズ」の実践者として、反核を目指した「脱原発」の闘いを創造的に取り組んでいく。そして一層の絆を強め、温か味のある活動を地道に創り出して行くために、これからの議論がいっそう大切に

全地本OB会員の温かい善意を被災した仲間へ届けました

被災会員からは、感謝の言葉が

本部OB会は、東日本大震災が甚大な被害を及ぼしていることに鑑み、被災地に居住しているOB会員の安全を気遣い、直ちに会員の安全確認と被災状況の調査を開始すると共に、全地本のOB会員に被災者支援の義援金協力を呼び掛けてきました。お陰様で各地本のOB会員一人ひとりの温かい善意により400万円を超える義援金が集まりました。本部OB会は、一日でも早く被災されたOB会員に見舞金を届けようと、取り組んできました。このたびは仙台地本の被災された会員に見舞金をお渡し出来ましたので、以下、「報告いたします」。

本部OB会は、大震災発生から3ヶ月の六月七日、JR東芳組仙台地本の三役室をお借りして、仙台地本OB会の役員の方々に立ち寄り、被災の皆さまにも立ち寄り、頂き、大地震や大津波で家屋の全てを失ったOB会員に「お見舞い金」をお渡しすることができました。

今回の仙台地本を皮切りに、準備が整い次第、盛岡・水戸・千葉地本の被災されたOB会員にもお渡ししていきます。

仙台地本管内で地震による倒壊や津波による流出で家屋を失ったOB会員は四名でした。被災された方々からは、地震当日の体験とその時の思いが生々しく語られました。目の前を我が家が流されてゆく様子や、津波に追いつけられながら避難した様子など、九死に一生を得た体験談もありました。しかし皆さんの話は、暗い語り口や弱音はなく、今後に備える避難訓練の在り方や地震マニュアルの十分さを指摘する等、冷静で前向きなものでした。



六月十七日、千葉地本OB会の高木さんには地本事務所まで来て頂き「お見舞い金」をお渡ししました。高木さんは、このたびの震災で液状化により家の土台がやられ、家屋倒壊の被害に遭いました。

☆被災者各氏からの「コメント」

◇小野剛央さん仙台：地震直後から携帯電話に大津波の情報が入り、高台に避難した。山越しに見た津波に圧倒された。眼下に見える我が家は大丈夫と思っていたが、全壊の判定で撤去され、今は避難所暮らしです。義援金を貰うなど、考えて無かったので、本当に有り難い。

◇佐藤初男さん仙台：OB会から義援金を頂けるとは思っていなかった。家は津波で流出し、五〇日ほど避難所で地域のひとと生活、現在はアパートの一室を借り生活。地元の人と元の場所に住めるよう願っている。全国のOB会員に「感謝の思い」を伝えてほしい。

◇高橋一雄さん仙台：このたびの大震災の被災に際し、温かい励ましと多大な義援金を賜りまして、大変有り難く御礼申し上げます。

我が家は昭和61年、苦勞の末に旧福島機関区の西留置線の南側に建てました。運転士として三年前に退職し、これから第二の人生を築こうと思っていた矢先の大地震でした。5件並びの全てが全壊となり、ショックでした。OB会の方々の温かい励ましに支えられ、今までの住所に小さな家を再建したいと思っています。

◇富田英夫さん仙台：あの日は家内の誕生日で妹たちも我が家におり、ケーキを切った直後に地震がきた。家族全員で非難した。津波が来るまで三〇分位時間があつた。友人から新車が置き去りになっていくからと頼まれ、取りに行き再度避難場所に向かう時、後ろから真っ黒い津波に追われた。今なら頼まれても取りに行かない。近所の人で飼った猫やお金などを取りに戻り、亡くなった人があまりにも多い。OB会からお金を頂くとは思いませんでした。みんな本当にありがたう。

◇高木徳雄さん千葉：30年前に建てた家だった。水田を埋め立てた敷地だったので液状化でやられた。仕事先から家に帰る途中、棟が無くなっている我が家を見て不気味だった。家内も出かけて帰宅する電車がなく真夜中に駅に辿り着いた。七月から近くに小さな家を建てる予定です。見舞い金、有難うございます。

現役の仲間と共に脱原発の闘いを!

大宮地本OB会・定期総会/報告
事務局長 橋詰康昭



去る5月29日、大宮総合車両センター会議室にて、大宮地本OB会の第12回定期総会が開催されました。梅雨の悪天候の中でしたが、総勢85名が出席し、活発な議論が行われました。

総会は、真壁OB会長の挨拶で始まり、東日本大震災及び付随して起きた東電福島第一原発の恐怖の現実と、事故をめぐる矛盾・疑問点が明らかにされ、今後の取り組みの中で復旧・復興の運動を強化し、JR東芳組と共に行動していくOB会の立場が提起されました。

本部OB会から本田副会長・伊藤事務局長、大宮地本から田崎副委員長・茅根組織部長、東京・横浜・八王子の各地本OB会代表から、激励の挨拶を頂きました。美世志会を代表して、梁次地本顧問から「最高裁の上告審開廷の世論を形成し、えん罪による労働運動弾圧事件として社会問題化を図りながら無罪判決・勝利に向かって闘っていく」という報告と決意が述べられました。

質疑では6名から発言があり、脱原発運動の重要性、会社の悪辣な労務管理と闘っている現役を、OB会は積極的に支援すべき事が強調されました。

総会の最後に、原発事故の早期収束と全ての原発の停止を求め、将来のエネルギー政策見直しを求める決議が提案され、満場一致で承認されました。

[2部]では茅根組織部長から、現役が被災地での復興支援に積極的なボランティアを担い、原発をめぐる職場討議で組織強化が図られている、との報告がありました。[3部]の懇親会は互いの元気を喜び和やかに開催されました。

新庄さま来てけるじゅ!

仙台地本・新庄駅連合会OB 星川 功

私のエルダー職場 紹介します

◇私のエルダー社員としての出向先職場は、ジェイアール東日本レンタリース(株) 仙台支店新庄営業所で、JR社員時代から今年6月で6年目を迎えます。

◇出向先のジェイアール東日本レンタリース(株)は、JR東日本一〇〇%出資の子会社で、経営の基盤はレンタカー事業と車等のリース事業が経営の二本柱となっています。

◇勤務先の「駅レンタカー新庄営業所」は、新庄駅西口の駅舎脇に営業所を構えています。現在、私は副所長として、女性社員と二人で勤務しています。所有台数は現在一三台、営業時間は八時三〇分から一九時までです。勤務は通常一日を一人の通し交番・日勤を組み合わせてあり、レンタカーの貸し渡し・損保事故代車などのレンタカー業の仕事をしています。

◇私は、高校から国鉄・JRと出向するまで、男だけの職場でしたので、初めは大変戸惑いましたが、セクハラ・パワハラの注意に努め、職場環境は良好です。

◇また、全国各地から来店されるお客様へのサービスとして、店舗の装飾・美化に努めています。ご利用のお客様が、何事もなく無事に営業所に戻られることが第一と私は思います。「安全・安心」な車両の提供が利用者だけでなく、他人の生命身体をも守ることであり、経営の根幹であり、レンタカー事業の最重要なものと考え、安全の追求を日々実行しています。厳しく忙しい職場ですが、お客様との情報交換などの会話で気持ちがあみまします。

◇さてOBの皆さん、3・11東日本大震災以降、まだまだ観光帰郷・ビジネスなどと低迷しています。新庄・最上地方は、交通の十字路で風光明媚、美味しいものが沢山あります。「つばさ」に乗って「新庄さま来てけるじゅ!」待ってます。営業所員一同(2人)笑顔でお待ちしています。